

○ 本校の概要

児童数は263名で、12学級である。教員数は19名で、本校が初任校である教員が全体の約半数である。
 ①実施している都立つばき総合高等学校と区立出雲中学校との交流活動や連携した取組を行っている。
 ②学校自然園や萩中公園などの自然環境を生かした学習活動、登校班による集団登校や縦割り班活動、ボランティアによる学校支援が充実している。
 ③「令和元・2年度 大田区教育委員会教育研究推進校」「理科教育推進拠点校」として、研究主題「対話力を高め、学びを深める児童の育成 ～授業マネジメントを核にして～」を掲げ、今年度10月30日に研究発表会を開催する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:90%以上	◎保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度75.2%から82.6%であった。 ・萩中小の地域材を使っている学習を積極的に取り入れている。多摩川の干潟を活用した授業を実施し、学習発表会で学習の軌跡を発表している。 ・ICTサポーターと連携し、タブレットを効果的に活用し、プログラミング学習の実践も行っている。デジタル化により学習を視覚化し、映像や写真を活用したり、内容を全体で共有したりして子どもの思考を活性化させている。 ・月1回、朝の時間に、「人権教育の時間」を学年単位で必ず実施した。また、人権集会を行っている。今年度は「障がい者理解」について学びを深めた。さらに、人権担当教員が研修した内容はOJTとして、回覧や連絡会での報告が実施した。 ・学年別に体育朝会を実施し、臨時休業に低下した体力の回復を図る運動や多様な動きをつくるための運動を実施した。 ・「萩中対話タイム(HTT)」では、アクリルパーテーションを設置して実施している。発達段階に応じ、昨年度までの実践をもとにした題材をさらに工夫を加えて、ペアやグループ等では意欲的な話し合いが実現できた。児童は、この萩中対話タイム(HTT)の時間をとても楽しみにしている。10月30日の研究発表会にて実践報告を行い、対話タイム集を配布した。	・児童は自分の考えをきちんと友達に伝え、友達の考えも尊重しながら議論しようと心掛けている。萩中対話タイムの成果が出始めていると感じる。 ・学校から提供された資料、研究発表会での説明から、萩中対話タイムなど様々な取組がしっかりとなされていることが伝わってきました。 ・萩中対話タイムの取組はとてもよいと思う。 ・多摩川干潟の自然研究に取り組んでいることは大変素晴らしいことです。東京港にそそぐ川でも数少ない貴重な場所です。 ・一人一台のパソコンが配備され、今後ICTの活用がさらに求められて、先生方のご苦労も並大抵ではないと思うが、新しい時代を生き抜く力を養う教育をお願いしたい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理科授業等を実施する。	4:85%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	2:80%以上			
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	保護者アンケート「子どもは、勉強が分かり、学力が付いている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:85%以上	◎保護者アンケート「勉強が分かり、学力が付いている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度84.5%から84.6%となり、わずかに目標に届かなかった。約3か月の臨時休業期間も影響したと考えられる。 ・個人面談では、萩中学習の記録や大田区学習効果測定の結果をもとに児童一人一人のつまずきや、できていることについて丁寧な説明ができた。また、学校再開後の取組について説明し、保護者の不安を軽減することに努めた。 ・算数ステップ学習により、各単元の習熟状況を確認し、補習が必要な児童に指導することができた。また、算数ステップ学習シートにより、保護者にその様子を知らせた。 ・毎週放課後の算数補習、年6回の土曜日補習を通して、学習への戸惑いのある児童に手厚く指導することができた。 ・授業改善推進プランを各学年、各教科主任が発表して全教員で成果と課題を確認した。ホームページや保護者会を通して、各学年の取り組みを丁寧に周知した。 ・校内研究では、対話活動に力を入れて取り組んだ成果を研究発表会にて報告した。また、理科教育推進拠点校として、校内や地域の自然環境を生かした体験学習や理科授業充実のための校内研修会を行った。	・大変厳しい状況下で教員がしっかりと対応していたことが感じられました。今までの取組を見てきた者としては、学校として、子どもにとっても教員にとっても普通の環境で研究発表会を開催させてあげたかった。 ・コロナ禍による学校休業期間の過程における学習の進め方は、先生方も難しかっただろうし、家庭でも非常に難しかった。逆に学校があることがいかにありがたいかを痛感し、先生方への感謝の思いが強まった。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:80%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:75%以上			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:75%未満			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	保護者アンケート「児童は元気で挨拶をしている」と回答した割合(4段階上位2位)	4:80%以上	◎保護者アンケート「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度78.4%から78.8%であった。 ・毎月の生活指導主任会や小中一貫教育の日に近況を報告し合っている。学校間で話し合う必要があった際にもすぐに、学校間で連絡を取り合って解決している。 ・メンタルヘルス調査後、該当事項に当てはまる児童と面談を行う。面談を行い、児童に寄り添うことで児童の悩みなどを詳しく知ることができている。 ・毎週の生活指導連絡会で各クラスからの報告を行って、全教員に周知している。 ・生活指導連絡会で気になる児童の報告を行い、全職員に周知している。不安を訴えた児童には管理職が面談などを行っている。 ・「萩中10の約束」は児童が完全に理解しているため、児童同士で注意する環境ができていく。そのため、約束を守れなかった児童はすぐに担任に連絡が行き、早い段階で指導ができていくので、規範意識を育てている。	・先生方のすばやい行動力、また、子どもたちも萩中10の約束を理解して守られていることは大変良いと思います。 ・臨時休業でメンタル面等、家庭だけでは厳しいこともあったかと思いますが、様々な立て直しは教員の尽力があったことと推察します。子どもたちの通学風景、元気な姿から学校が落ち着いていることが伝わってきます。 ・今後、区がいじめ対策推進条例や不登校対策基本方針を策定する予定と伺っているので、児童の幸福を念頭に置いた対応をお願いしたいと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:75%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:70%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:70%未満			
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	保護者アンケート「教職員は、健康で安全な学校生活を送るための指導をしている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:95%以上	◎保護者アンケート「健康で安全な生活を送るための指導をしている」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度95.6%から97.8%であった。 ・主として個人で取り組むことができる運動に特化し、学年別体育朝会を実施した。休み時間にも運動に取り組める場を設定し、体力向上を図った。 ・生活リズム調査を学期ごとに1週間に渡って行うことで、児童の生活習慣を把握し、指導や改善に当たることができた。また、望ましい生活習慣への意識が高まった。	・コロナ禍で困難な状況の中、規則正しい生活の啓発や体を動かす機会を作っていたができていなかった。 ・広い校庭を十分活用している。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	3:90%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:85%以上			
		【追加】体育授業地区公開講座を開催し、児童が運動への関心を高めて楽しさを感じ、進んで運動に取り組む意欲を高める。	1:85%未満			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:95%以上	◎保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度93.1%から94.5%以上であった。 ・区内研究発表を参観した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・サポートルームの先生、カウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職情報交換を行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・マスク着用での生活で会話制限されていることを考慮し、廊下や階段の踊り場スペースに季節、学校、環境、文化、言語等に関するクイズを掲示し、児童の興味関心を高める掲示の工夫を行った。	・全クラスの出入り口のドアを外し、換気に配慮した距離感、環境に十分な気遣いが感じられました。 ・研究発表会に参加させていただき、先生方の研究発表を拝聴したが、日頃の熱心さがうかがえる内容で大変感銘を受けた。 ・教職員の努力を感じます。 ・改善されてきています。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:90%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:85%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:85%未満			
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	保護者アンケート「学校は、教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:95%以上	◎保護者アンケートにより、「教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えていく」の項目で4段階評価の上位2位の割合は、前年度95.6%から96.6%であった。 ・学校ホームページで学校生活の様子を毎日記事にして更新した。また、例年のように来校できない保護者や地域の方々に向け、行事の様子や日常の学習の様子を動画で紹介した。 ・地域教育連絡協議会は、予定していた年3回から10月の研究発表会参加と、3学期の協議会という開催となったが、学校の取組、成果を報告し、意見を伺った。年度末には評価を依頼し、次年度の教育活動に活かしている。また、保護者アンケートを実施し、その結果も反映させている。アンケートの回収率は99%である。 ・来校者の制限をする中で、学校支援地域本部を中心に図書やガーデニングなどのボランティア活動の支援が充実させた。また、地域力を生かした活動として多摩川、6年の歴史の学習を行った。今年度もゲストティーチャーを招き、講演や実技体験を通して学習を深めることができた。 ・ほぼ全家庭が緊急連絡システムの登録を行い、ホームページと合わせて、緊急時の連絡体制が整備できた。	・コロナ禍で学校での子どもたちの様子を参観することもできない中、毎日のブログの更新や動画の公開などで子どもたちの様子がよく分かった。学校の自己評価はもったいない評価でよいと思う。 ・様々な情報で先生方が大変頑張っていることは存じ上げています。制約、制限の中で、これからまたあたらしく取組も出てくるかと思えます。先が見えない中、子どもたちの学力、体力、心の成長、育成と求められるものは厳しい中でも今まで以上に頑張るかもしれません。感謝しかありません。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:90%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:85%以上			
		【追加】配信メールを活用し、学校からの必要な情報を迅速かつ正確に伝える。また、学校からの学級通信や担任からの電話連絡を日々行う。	1:85%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。